

## 2) 調布市内児童館による健全育成活動としての農業体験 「親子田んぼクラブ」

### ◆活動主体について

調布市は東京のほぼ中央、多摩地区の南東に位置。地形的には武蔵野台地の南西部に当たる。かつては市内のあちこちに畑や田んぼがあったが、今では佐須と染地の2地区にわずかに残っている程度である。

市内には11の児童館があり、地域の児童の健全な遊び場の確保、健康増進、情操を高めることを目的として事業を展開している。その一環として1985年、児童館親子田んぼクラブを組織。毎年、市内在住の児童とその親を対象に田植えから稲刈りまで半年間の稲作体験活動を実施している。

### ◆取り組みの経緯

きっかけは地元の農園主が市に田んぼを貸与したいと申し出たこと。調布市では学校単位で農業体験をやっているところもあったが、1985年、子どもたちの健全育成をめざし、社会教育の一環として児童館が稲作体験活動をスタートさせた。昔ながらの米づくりを通して地域や農業のこと、食べ物の安全性などを知ってもらおうというのが目的である。

農作業の指導は田んぼの持ち主である調布市自然観察農園の農園長とそこで作物をつくっている市民の会（『ハウスの会』）のメンバー。この稲作実行委員会が日々の稲の管理もしてくれているが、田んぼクラブの運営は徐々に会員主体になりつつあるという。

当初は毎年、小学3年生以上の児童とその親50組を募集（参加希望者多数の場合は抽選）していたが、14年度からは継続参加者を優先。欠員を募集することに。19回目の15年度は計60組を予定。継続参加の中学生、親とともに参加する低学年も少なくない。

### ◆活動の概要

参加料は無料。ただし、最低4回以上、また親子での参加が原則。参加者は

調布市全域から集まっている。子どもの男女比は半々だが、親は母親が多い。

活動は6～12月。会員説明会、くろつけ、苗とり、田植え、稲の観察と草取り、掛け干し作り、稲刈り、脱穀、収穫祭の9回で、作業は土曜か日曜に行われる。自然が相手なので天候に左右されるが、田植えや稲刈りは雨天でも決行。11月下旬から12月上旬に行われる収穫祭では収穫したもち米でつくった赤飯などを食べる（O-157の蔓延で、児童館で餅つきをすることはできなくなった）だけでなく、稲藁を用いてクリスマスのリースや正月のお飾りもつくる。

作業前には活動のあらましや服装などについての注意事項（イラスト入り）、田んぼまでの地図などが記された「田んぼ通信」を会員宅に郵送。また、毎年、全作業終了後に参加者の児童と親にアンケートをとり、翌年の活動に活かしている。

現在、児童館のスタッフは各館1名ずつ計11名。年4回、会員の親たちを交えて担当者会議を開催。作業スケジュールなどについて話し合う。

実際の活動にあたっては、まず親たちに稲の持ち方や刈り方など作業手順を覚えてもらう。子どもたちは稲を踏んでしまったりするので、最初は外から作業を見て覚えてもらう。継続して参加するうちに親も子もベテランになり、初心者を上手に指導できるようになるという。児童館がつくっている小冊子の中の「田んぼクラブの歴史」によると、1年目（1985年）は「稲の育ちが悪く、とても心配しました」、3年目（1987年）は「夏の水不足が心配で、ハラハラ、ドキドキ!」、6年目（1990年）は「台風で稲が倒れて、稲刈りが大変だった」、9年目（1993年）は「冷夏で日本中、お米が採れませんでした。外国からお米を輸入したのもこの年でした」とあるが、ここ数年は冷夏や水不足、台風や運動会などのイベントが稲刈りと重なったりしても「おいしいお米ができました」と結ばれていて、確実に米づくりが上手になり、少々のことでは動じなくなってきたのがわかる。夏は作業後に多摩川べりで弁当を食べたりもする。

#### ◆成果と今後の課題

「稲の成長が楽しみだった」「一粒の米から稲をつくる大変さを学んだ」「収穫の喜びを体験できた」「自分でつくったお米は最高においしかった」など

アンケートに書かれた参加者の声からもその充実感がうかがえる。「将来、農業をしてみたい」という子どもや「子どもとのふれあいが深くなった」という親もいたという。また、子どもたちの前で大人が叱られることもしばしばあり、「家庭や学校では見られない光景が新鮮だった」という声もあった。

天候により作業は思い通りに進まないこともあるが、何年か継続して参加している親子は農作業の手順も理解し、かなり自主的に作業ができるようになった。学校週5日制にともない14年度からは従来、稲作実行委員会や職員が行っていた、くろつけ、苗とり、まんが洗い、掛け干し作り、脱穀なども会員に呼びかけて実施。収穫祭も会員が企画・運営委員になり、職員とともに開催した。このように会員に主体的な参加を呼びかけ、将来的には会員たちの自主運営をめざすつもりだという。そのための説明会も開催している。

一番の問題は農地が個人からの借地であること。相続問題にからんで農地が借りられなくなることも考えられるので、そういった場合の対策も思案中だという。

## 資料1：児童館について

### 定義)

児童福祉法第40条に規定する児童厚生施設の1つで、地域において児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とする児童福祉施設

### 設置状況)

4,420ヶ所（平成12年10月1日現在）

- 内訳 ・ 公営 3,259ヶ所
- ・ 民営 1,161ヶ所

### 実施主体)

都道府県、指定都市、市町村、社会福祉法人等

### 事業内容)

児童の健全な遊びの場の確保、健康増進、情操を高めることを目的とした事業

(例示)

- ・ 遊び場を通じた集団的・個別的指導
- ・ 母親クラブ等の地域組織活動の育成・指導
- ・ 健康・体力の増進
- ・ 放課後児童の育成・指導
- ・ 年長児童の育成・指導等

### 設備・職員の最低基準)

児童福祉施設最低基準（厚生省令）第37～40条

- ・ 設備：集会室、遊戯室、図書室および便所の設置
- ・ 職員：児童の遊びを指導する者（児童厚生員）の配置

## 資料2：児童館の種類

児童館は、その規模及び機能から、おおむね次のような型に分けることができる。

### ①小型児童館 2,790か所

小地域を対象として、児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにするとともに、母親クラブ、子ども会等の地域組織活動の育成助長を図る等、児童の健全育成に関する総合的な機能を有するもの。

### ②児童センター 1,445か所

小型児童館の機能に加えて、運動、遊びを通して体力増進を図ることを目的とした指導機能を有するもの。

### ③大型児童館 21か所

#### ・A型児童館 16か所

児童センターの機能に加えて、都道府県内に小型児童館、児童センター及びその他の児童館の指導及び連絡調整等の役割を果たす中枢的機能を有するもの。

#### ・B型児童館 4か所

豊かな自然環境に恵まれた一定の地域内に設置し、児童が宿泊しながら、自然を活かした遊びを通して協調性、創造性、忍耐力等を高めることを目的とし、児童センターの機能に加えて、自然の中で児童を宿泊させ、野外活動が行える機能を有するもの。

#### ・C型児童館 1か所

広域を対象として児童に健全な遊びを与え、児童の健康を増進し、又は情操を豊かにする等の機能に加えて芸術、体育、科学等の総合的な活動ができるように、劇場、ギャラリー、屋内プール、コンピュータプレイルーム、歴史・科学資料展示室、宿泊研修室、児童遊園等が適宜附設され、多様な児童のニーズに総合的に対応できる体制にあるもの。

### ④その他の児童館 164か所

小型児童館に準ずる児童館

\*数字は平成12年10月1日現在

資料3：調布市内親子田んぼクラブ 取り組み児童館・担当職員

(平成14年度)

**【取り組み児童館担当職員】**

チーフ：三浦〔染地児童館〕

サブ：土方〔緑ヶ丘児童館〕

秋山〔つつじヶ丘児童館〕

山花〔東部児童館〕

猪股〔国領児童館〕

石川〔多摩川児童館〕

鈴木〔深大寺児童館〕

小椋〔富士見児童館〕

富永〔左須児童館〕

大井〔西部児童館〕

加藤〔調布ヶ丘児童館〕

**【指導農家】**

調布市自然観察農園農園長 斉藤修一

稲作実行委員会

## 資料4：田んぼクラブの歴史

- 1年目（1985）——稲の育ちが悪く、とても心配しました。
- 2年目（1986）——とてもうまく育て、お米がたくさん採れたよ。
- 3年目（1987）——夏の水不足が心配でハラハラ、ドキドキ！
- 4年目（1988）——冷夏でどうなることかと思いました。
- 5年目（1989）——稲の育ちが悪く心配しましたが、秋にはおいしいお米が採れました。
- 6年目（1990）——台風で稲がたおれて、稲刈りがとても大変だった。
- 7年目（1991）——天気が悪くて、稲の育ちが十分でなかったんだよ。来年こそは
- 8年目（1992）——天候に恵まれ、お米がたくさん採れて豊作でした。
- 9年目（1993）——冷夏で日本中、お米が少ししか採れませんでした。  
外国からお米を輸入したのもこの年でした。
- 10年目（1994）——暑い夏でおいしいお米がたくさん採れました。でも、お米を  
乾かす時に台風が来て大きわぎ！
- 11年目（1995）——天候が良く順調に稲も育ち、平年並みにお米が採れて一安心
- 12年目（1996）——今までの陸苗を、30年ぶりに水田の苗床で苗を育てての田  
植えでした。天候に恵まれ、おいしいお米が沢山採れました。
- 13年目（1997）——田植えの数日前に台風が来て心配しましたが、平年並みにお  
米が採れました。
- 14年目（1998）——みんなの取組でおいしいお米が採れました。
- 15年目（1999）——天候に恵まれ豊作でした。子どもたちは、カエルにも夢中  
でした。
- 16年目（2000）——運動会と重なった田植え、雷雨の中の稲刈りでしたが、収穫祭  
ではおいしいお米をいただくことができました。
- 17年目（2001）——会員がとても意欲的で、出席率よく、充実した活動ができました。  
稲刈りも大雨の中みんながんばりました。収穫祭の赤飯がおいしかったです。
- 18年目（2002）——今年も、おいしいお米がたくさんとれますように





## 資料6：田んぼの仕事と田んぼクラブの活動

### 田んぼの仕事

各作業の前に「田んぼ通信」にて詳しくお知らせします。

※このようなものがあります

- |             |  |
|-------------|--|
| 苗床作り準備      | 土をトラクターでよくかきまわし、細かくして平にする。                   |
| 種もみ消毒       | 種についている病菌を消毒して、水につけ発芽を早くさせる。                 |
| 苗床作り        | 苗床を平に固めるため、板などで軽くたたいて苗を育てる所を作る。              |
| 初まき         | 苗床(水田)に初を蒔き、鳥に食べられないように網をはる。                 |
| (4月21日)     | 苗床が陸苗の場合でも同じように網やビニール等をはる。                   |
| 水やり         | 苗床が水田なので、苗の成長に合わせ、水を入れる量を調整し、常に水をはった状態にする。   |
|             | (苗床が陸苗の場合は、水をまいて発芽するのに十分な水をやる。)              |
| 苗床草取り       | 苗の成長と一緒に雑草も伸びるので抜く。                          |
| (作業の間いつでも)  |  |
| 田おこし        | 畑として利用していたので、荒代かきと一緒にすることが多い。                |
| 荒代かき        | 田んぼに水を入れ、土をやわらかくするためにトラクターでよく土をかきまわす。        |
| (6月6日)      |  |
| ○くろつけ       | 水を入れたとき、縁から水がもれないように田んぼのまわりの畔に土(泥)をはりつける。    |
| (6月9日)      |  |
| 本代かき        | 田植え前に、土をもっと細かくするため、念入りにトラクターで土をよくかきまわして平にする。 |
| (6月13日)     |  |
| ○苗取り        | 苗を田に植えかえるために、苗代から苗を引き抜き、持ちやすい大きさに葉で束ねる。      |
| (6月15日)     |  |
| ◎田植え(6月16日) | いよいよ本格的に成長させるため、田んぼに植える。                     |

苗手直し きちんと植えられたかを見直し、具合の悪いところを直す。  
(田植えをしてからふつう1週間後ぐらい)

毎日の水やり 稲の成長に合わせて、水を入れる量を調節します。土が見えないよ  
う、且つ苗が水没しないよう注意します。

◎稲の観察と草取り 稲の成長を観察し、雑草があれば雑草をとる。稲に似た  
(8月4日) 「ひえ」も見のがさないように注意をしてとる。畔の草退治  
も夏の猛暑の間に頻繁に行なう必要があります。退治してお  
かないと草の種が、田んぼの中に入ってしまう。

網掛け (8月頃) 実がつき始めた頃、鳥に食べられないように網をはる。

○掛け干し作り 刈り取った稲を天日で干すための干し場を竹などで組む。  
(9月ころ)

◎稲刈り (9月頃) 鎌で稲を刈り取り、束にして掛け干しに掛ける。落ち穂拾いも  
行なう。

◎掛け干し (9月頃) 干し場で天日により干す。

○脱穀 (稲刈り後) 干した稲を脱穀機にかけて籾をとる。

○掛け干し片付け 掛け干しを来年も使えるように片付ける。  
(10月頃)

籾すり 籾すり機に掛け「籾殻」をとり玄米にする。

貯蔵 玄米のまま保存、貯蔵する。

精米 玄米を必要な分だけ精米機にかけ、薄皮(糠)を取り白米にする。

◎収穫祭(12月頃) 無事にお米を収穫できたことを感謝し、来年もまた無事であるこ

○(自然観察農園 11/24) とを祈願して、みんなで楽しくお米の収穫を祝う。

◎は、全員参加が原則の作業です。

○は、希望者(有志)の参加の作業です。

資料7：田んぼ通信（活動情報の発信）



雨の中の稲刈り、大変でしたね！

9月9日（日）：時折雨足の中、カッパを着込んでの稲刈りでした。まだまだ気温も高かったので、カッパの中は蒸っしょり。稲は雨の重みに負けてへたり気味。そして足元のぬかるみは足をがっちりと押さえ込んでなかなか離れてくれず、身体が先に行ってしまうと田んぼとお友だちになってしまった人も…

それでも園の方々に刈り方を教えて、みんな一生懸命刈り取りましたね。みなさん、本当におつかれさまでした。さて、今度はいよいよ収穫祭です。みんなで収穫のお祝いしましょう！

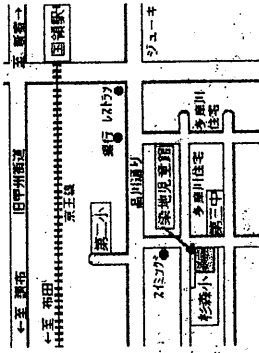
収穫祭のご案内

- 日時：12月9日（日）午前9時～午後1時まで
- 場所：桑畑児童館（雨でもやります）
- 内容：1. 収穫したお米を炊いて食べます。  
（白いごはんとトン汁・おつけもの など）
2. わらを使ってお正月のおかざりを作ります。

持ち物：おわん・おちやわん・はし・タオル・エプロン・すいとう

おながい：おかざりの材料に良いと思われるもの（裏面をみてください）参加できない方は、申し込みをした児童館まで早目にご連絡ください。汚れてもかわらない服装で参加してください。駐車場はありませので、お車での来場はご遠慮ください。当日は、アンケートにご記入いただきますので、ご協力をお願いいたします。

桑畑児童館の場所



調布駅南口より多摩川住宅行きバス乗車、二小前下車 徒歩5分くらいです。京王線国領駅下車（マルエツ側） 徒歩13分くらいです。

おわび

稲刈りが終了したあとの「脱穀」作業は、その後の雨天つづきの影響で刈り取った稲がなかなか乾燥しなかったために作業日程の調整がつかず、農園の方々の手で脱穀していただきました。脱穀作業をお手伝いして下さる予定でいらした会員のみなさまには、心からお詫び申し上げます。

資料 8 : 田んぼクラブの活動風景

